

主要事業評価シート(第1次実施計画/H29・30・R1年度)

① 基本 事業 体系	計画コード	事業名		部名	総合政策部
	17105	地価調査・地番図整備事業		課名	税務課 資産税G
	施策の大綱	06:行政経営		財務 科目	01:一般会計
	基本施策	03:持続性を保つ健全な財政運営			02:総務費
	施策の方向	01:多様な手法による安定した財源の確保			02:徴税费
戦略プロジェクト	-		02:賦課徴収費		
事業予定期間	H 18 ~ R -	年度	主な根拠法令要綱等	地方税法・亀山市税条例	

② 目的 概要	対象	固定資産税(土地)
	目的	固定資産税の課税対象である固定資産(土地)の現状及び資産価額の変動を的確に把握することにより、適正な土地の評価を行い、公平・公正な賦課に努める。
概要	固定資産は、3年毎に評価を見直し、「適正な時価」を課税標準として課税している。評価替えは、現状及び資産価額の変動に対応し、評価額を適正な均衡のとれた価格に見直す作業である。特に、平成30年度評価替えでは都市計画区域内、令和3年度評価替えでは、都市計画区域外のその他宅地評価法適用区域において、準路線価評価を導入し、より均衡のとれた価額に見直し、納税者に対して説明責任を果たせる適正な評価を行うものである。	

		平成29年度	平成30年度	令和元年度	
③ 事業 の 計画 ・ 実績	年度計画	<ul style="list-style-type: none"> ○固定資産(土地)システムを用いた評価 <ul style="list-style-type: none"> ・地番図の異動修正 ・路線価の更新 ・画地認定図の異動修正及び条件計測 ・公図のイメージデータ異動更新 ・航空写真の簡易オルソの作成 ・鉄軌道評価及び土砂災害の補正の更新 ・その他宅地評価法適用区域の準路線価評価の導入(都市計画区域内) ・固定資産土地評価事務取扱要領の作成 ○不動産鑑定士による土地の鑑定評価 <ul style="list-style-type: none"> ・鑑定評価の時点修正(90地点) ・ゴルフ場素地の鑑定評価業務(3地点) 	<ul style="list-style-type: none"> ○固定資産(土地)システムを用いた評価 <ul style="list-style-type: none"> ・地番図の異動修正 ・路線価の更新 ・画地認定図の異動修正及び条件計測 ・公図のイメージデータ異動更新 ・土砂災害の補正の更新 ・その他宅地評価法適用区域の準路線価評価の導入(都市計画区域外) ○不動産鑑定士による土地の鑑定評価 <ul style="list-style-type: none"> ・鑑定評価の時点修正(90地点) 	<ul style="list-style-type: none"> ○固定資産(土地)システムを用いた評価 <ul style="list-style-type: none"> ・地番図の異動修正 ・路線価の更新 ・画地認定図の異動修正及び条件計測 ・公図のイメージデータ異動更新 ・土砂災害の補正の更新 ・その他宅地評価法適用区域の準路線価評価の導入(都市計画区域外) ○不動産鑑定士による土地の鑑定評価 <ul style="list-style-type: none"> ・標準宅地の鑑定評価(327地点) ・鑑定評価の時点修正(90地点) 	
	年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・地番図異動修正(1,903筆)・路線価更新(2,415本)・画地認定図の異動修正及び条件計測(722筆)・公図のイメージデータ更新(1,903)・航空写真の簡易オルソ作成(60km²)、その他宅地評価法適用区域の準路線価評価の導入(都市計画区域内)・固定資産土地評価事務取扱要領の作成・鑑定評価の時点修正(90地点)・ゴルフ場素地の鑑定評価業務(3地点) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地番図異動修正(2,031筆)・路線価更新(2,429本)・画地認定図の異動修正及び条件計測(720筆)・公図のイメージデータ更新(2,031)・土砂災害の補正の更新(817)・その他宅地評価法適用区域の準路線価評価の導入(都市計画区域外)・鑑定評価の時点修正(90地点) 		
事業 費	計画額	事業費	11,700千円	15,800千円	23,300千円
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他			
	予算額	事業費	11,622千円	15,312千円	
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他			
決算額	事業費 ①	11,535千円	15,181千円		
	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債				
	その他				
人件費	総人件費 ②	7,679千円	7,783千円		
	一般職員	7,679千円	7,783千円		
	所要人員	1.00	1.00		
	臨時職員等	0千円	0千円		
総コスト(①+②)		19,214千円	22,964千円		
受益者負担率		0.0%	0.0%		

				平成29年度	平成30年度	令和元年度	
④ 指標	①	名称 その他宅地評価法区域内の準路線価評価(都市計画区域内) 都市計画区域内のその他宅地評価法で評価している宅地と宅地比準地に対し準路線価評価を導入する。	成果	計画値	100		
			実績値	100			
			単位	%			
	②	名称 その他宅地評価法区域内の準路線価評価(都市計画区域外) 都市計画区域外のその他宅地評価法で評価している宅地と宅地比準地に対し準路線価評価を導入する。	活動	計画値	0	40	70
			実績値	0	40		
			単位	%	%	%	
③	名称		計画値				
			実績値				
			単位				

⑤ 事業の改善行動	前回評価	【前回評価の対応方針の概要を記入】 都市計画区域外の準路線価評価の導入における画地認定作業は、対象筆数(約3,000筆)が膨大であることから、作業を効率よく正確に進めることが必要であるため、航空写真を含む地理情報システムを活用し作業時間を短縮するとともに、必要に応じて現地調査を実施し正確な画地認定作業を行う。
	改善行動	【前回評価の対応方針を踏まえ、どのような措置を講じたか】 平成30年度は、画地認定の対象筆数約3,000筆の内、約1,000筆について作業を行ったが、航空写真を含む地理情報システムを活用し作業時間を短縮する等、作業の効率化を図った。

		評価	(判定)
⑥ 事業の評価	活動	【計画どおりに実施できたか】 平成30年度事業として、地番図の異動修正、路線価の更新、画地認定図の異動修正及び条件計測、公図イメージデータ異動更新、土砂災害の補正の更新、都市計画区域外のその他宅地評価法区域の準路線価の導入に向けた画地認定作業(約1,000筆)を行うとともに、不動産鑑定士による土地の鑑定評価の時点修正(90地点)を行った。	A 計画どおり実施できた
	成果	【成果は順調に上がったか】 準路線価評価の導入に向けて、画地認定作業が順調に進捗しており、予定どおり次の作業に繋げることができる。	A 十分な成果を得た

⑦ 今後の対応方針	課題	【課題は何か】 令和元年度は、対象筆数約2,000筆について画地認定作業を行うが、引き続き、作業を効率よく正確に進めることが必要である。	今後の方向性 <input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> その他 【その他の場合、その内容を記載】
	対応	【課題に対し、どのように対応するか】 引き続き、航空写真を含む地理情報システムを活用し作業時間を短縮する等、効率化を図るとともに、必要に応じて現地調査を行い、正確な画地認定作業を行う。	
	効果	【対応することで、どのような効果が期待できるか】 正確な画地情報を整備することにより、準路線価評価を導入する際に、より適正・公正な評価を行うことができる。	
対応時期		令和元年度	

【1次評価者】	総合政策部 税務課 資産税グループリーダー 麻生 俊哉
【最終評価者】	総合政策部 税務課長 辻村 俊孝

(参考:前期基本計画期間(H29-R3)における評価履歴)

		H29	H30	R1	R2	R3
判定	活動	A	A			
	成果	A	A			